

荒野で待つ 2020

野沢 和弘

植松被告のことば

「障害者はかわいい」



「障害者は人間扱いされていない、かわいそうだ」



「先輩に相談したら、『2～3年すればお前もわかる』と言われた」



「重度障害者には生きる価値がない。社会を不幸にする」

彼は「未知の異常者」ではない。元職員である以上、施設での勤務中に起きた出来事や人間関係の中に動機につながる何かの要因があったと見るのが常識だ

障害者虐待防止法では施設内に虐待防止委員会を設置し、虐待があれば市の虐待防止センターへの通報が義務づけられている。障害者への暴言や虐待行為があったとき、施設側はどのような対応をしていたのか。

職員による虐待の背景には障害者との関係だけでなく、上司や同僚との関係、家庭や私生活上の問題などが多岐にわたり、それらが複雑に絡み合っている場合がある。虐待が日常的に起きている施設は通報しないケースがほとんど。

「北摂杉の子園」の松上利男理事長

<検証委員会>

- ・少なくとも25件の身体拘束を確認、さらに調査
- ・終日施錠が複数(部屋にはバケツ、ポータブルトイレ)
- ・「見守り困難」が主な理由。身体拘束の3要件(緊急性、一時性、非代替性)に違反の疑い
- ・行動障害の改善策として「食事中に姿勢を良くする」...
- ・平成30年の共同会と県の検証報告書「身体拘束なくなった」
- ・当時、県は複数の身体拘束が継続していたことを確認しながら、報告書では触れず、むしろ「隠蔽」に加担
- ・外部の意思決定支援チームが強く主張して、1人の身体拘束を最近やめる。
- ・ソファに便がこびりついていた
- ・現在の検証委員会の会見後、障害サービス課長が打ち消すような会見をする
- ・県OBが理事長ら複数天下り



これからの社会保障

◆社会保障給付費の総額

2018年度は121.3兆円(対GDP比21.5%)

→ 2040年度は約190兆円(同24%)

◆財源確保は？ 税＋保険料＋自己負担＋**借金**

国と地方の長期債務は現在1107兆円。GDPの2倍近くにも上る。40年には2700兆円に？

経済成長 人口減少、GDPの6割が個人消費

負担増 消費税8% → 10% →

- 低成長下で増え続ける社会保障費の財源を調達できず、借金をしてやり繰りしてきた。
- 国と地方の長期債務は現在1107兆円を超えた。世界でも類を見ない巨額の債務で、GDPの2倍近くにも上る。このままでは40年には2700兆円にまで膨らむという試算も。
- 財政の信頼が失墜すると長期金利が高騰し、国債を大量に抱える金融機関に含み損が生じて金融システムが機能しなくなる。政府の資金調達も困難になり、借金して社会保障費の穴埋めをすることもできなくなる。国民生活の破綻。
- 国民は社会保障への不安から老後のために預貯金をするばかりで、なかなか消費は喚起されない。
- GDPの6～7割を占めるのは個人消費。

医療技術の進歩と命

- 高齢者数のピークは2042年。後期高齢者は2060年。認知症は1000万人を超える。
- 人工透析33万人、1兆6000億円
- 重症心身障害の子どもが生きるようになった
- NICU(乳幼児集中治療室)が満杯→医療ケアの必要な子どもが地域で暮らす
- ALSなど難病は急増。ALS患者は416人(1975年)→9950人(2014年)。患者の7割は人工呼吸器を付けない。

命にかかるお金について

- 少子高齢化で社会保障の財源が逼迫。財政破綻の危機。
- 障害以外の困窮者(依存症、うつ、ひきこもり、自殺、孤独死、ゴミ屋敷.....)の増大
- 膨張し続ける借金のツケは若い世代に
- 米国の「世界秩序」の下で経済成長だけめざせばよかった時代の終焉
- GAFAの情報テクノロジーで価値観や生活感覚が急速に変化。社会的弱者への共感が得にくい？
- **なぜ、困っている人のためにカネを出すのか？**

「政府は自分で生活できない人を助けるべきか？」

(What the world thinking in 2007)

「政府は自分で生活できない人を助けるべきか？」

(What the world thinking in 2007)

「助けるべきではない」

アメリカ	28%
イギリス	9%
フランス	9%
中国	8%
ドイツ	7%

「政府は自分で生活できない人を助けるべきか？」

(What the world thinking in 2007)

「助けるべきではない」

日本	38%
アメリカ	28%
イギリス	9%
フランス	9%
中国	8%
ドイツ	7%

青年よ、荒野をめざせ

何もかも中心に集まる時代なんておもしろくない。自分の中に「中心」のある若者よ、荒野をめざせ。荒野から世界を変えよう

「学歴社会を勝ち抜くことだけ考えて生きてきた。頂点に立った時、その先が何も見えなかった」

大企業や官庁に背を向け、救護施設ではたらく東大生

行き倒れで記憶喪失、派遣切りでホームレス、刑務所を出ても行き場がない.....社会から捨てられて人々が最後にやってくる施設

胸ぐらをつかまれ、怒鳴られ、スリッパを投げつけられる。それでも、

「やっと本物の社会とつながることができた気がする」





大学院をやめて生活困窮者のセンターで働く。
女性に生まれたことへの違和感→ 女子高で保健室に逃げ込む、
涙が出て止まらない、精神科へ。
東大に入って世の中を見返そうとするが、男女共学でさらに追い
詰められる。休学→パレスチナへ単身で渡航

父がつけてくれた「花野」という名前を捨て、なけなしの貯金80万
円を使って胸を切除する手術を受ける。

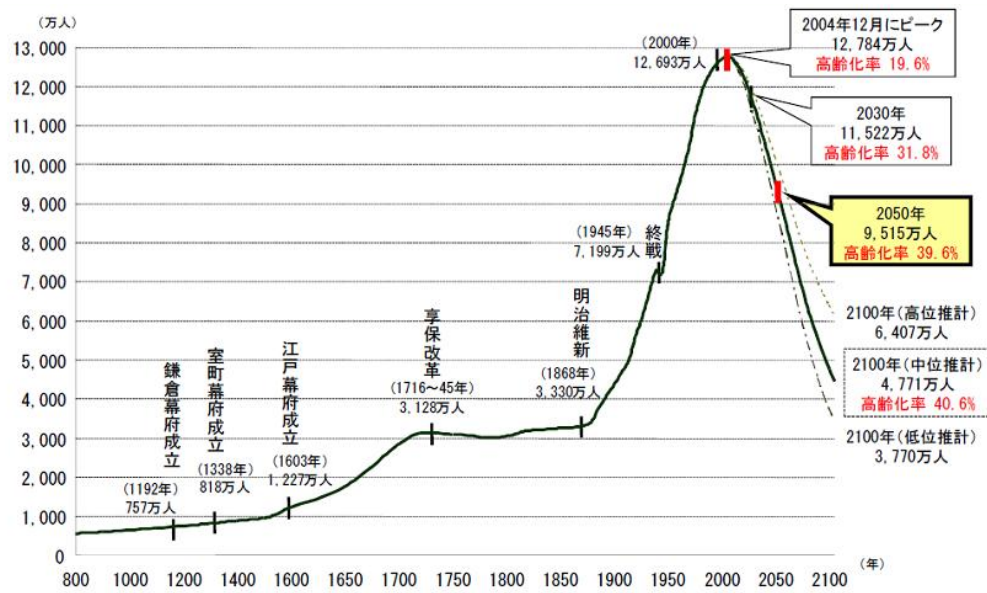
「私は、男になりたかったのではない。私は私自身になりたかった
」

「社会に自分を合わせるなんてクソくらえ。だから宙ぶらりんのま
までいる」

「選択肢や可能性がたくさんあることが自由なのではない。ギリギ
リまで追い詰められた果てに、たったひとつ残されたもの。それが
自由だと思う」

これからの時代

- 世界的にはアメリカ1強時代の終わり
- 地球温暖化がさらに深刻に
- グローバル経済と格差拡大
- 核・テロの拡散
- 国内的には人口減少
- 高齢化、身寄りのない独居、認知症がたくさん
- 人口知能(AI)でホワイトカラーの働き方が変わる



- 25年ごろは年間64万人(船橋市、足立区)の減少。
- 30年頃は75万人(徳島県)
- 40年ごろは89万人(世田谷区、山梨県)
- 60年頃は94万人(和歌山県、北九州市に匹敵)

資本主義、国民国家の終焉

- 16世紀から続く資本主義 → フロンティアからの蒐集
 - 資源、労働力、土地を安く手に入れ富を蓄積する原理
 - フロンティアの消失 → アメリカが金融工学で架空のフロンティアを作る
 - グローバル経済はウォール街に資本集めるシステム
- どんな経済政策を打っても成長しない時代、消費者の価値観の変化
- ★グローバル経済による格差拡大、地球環境、テロの拡散
 - 国民国家は小さすぎて解決できない
 - ★個人の生活の安定
 - 国民国家は大きすぎて解決できない

「坂の上の雲」の終焉

- 明治維新を近代の始まりとする司馬史観にとらわれ過ぎる。終戦後もバブル崩壊後も、龍馬や西郷さんを求めてきた
 - 坂本龍馬は幕末のころは無名。昭和30年代に司馬遼太郎が「龍馬がゆく」を書いて注目
 - 欧米の列強に追いつくことを目指し、坂の上の雲を追ってきた日本。しかし、「資本主義」「国民国家」の限界を迎えた今。
 - 江戸時代までの豊かな文化や産業、人々の暮らしの中に未来の社会を創るヒントがある。
- ★キャッチアップ → 未知の世界を拓く独創性

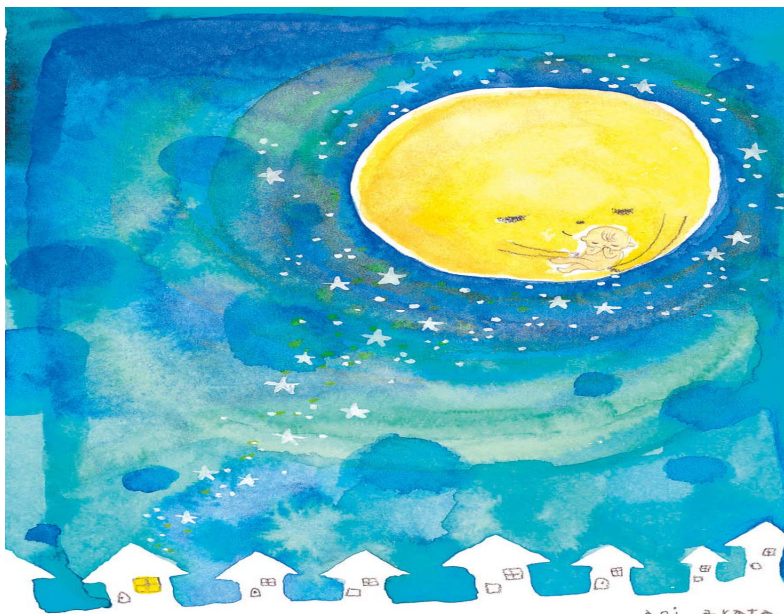
何のために人は生きるのか

目先の「成功」「もうけ」を求める生き方

→ 社会の変化に振り回される人生
業績の良い会社がいつまでいいかわからない。
ハーバード大学は優秀な学生は起業、日本でも.....

※宝物は自分の中にしかない。自分の中に「中心」をつくる

- 社会課題を洞察し解決に向かう「理性」「良心」
- 真理を探究できる「知性」
- 幸福(充足感>快適、便利、見栄)を感じ取ることができる「情感」「感性」
- 同調圧力に流されない「意志」



人間はちっぽけな存在だ。
流れ星のように、だれかに気づかれることもなく生きて消えていく
ぬくもりを一瞬だけ残して



SCN_0001 (2).pdf